

(仮称)秋田公立美術大学設置基本構想(案)に関する準備委員会での意見とその対応

	意見の概要	対応方針
1	国際的な交流も含め、もう少しグローバル的な要素をPRの中に取り込んでいければ、日本全国から世界に飛び出していこうという学生が集まり、最終的には、そうしたグローバルな人材の育成が、結果として地域への貢献に繋がるのではないかと。	グローバル人材については、幅広い美術表現の素地や新しい表現を模索する力を育むようなカリキュラム構成、美術界で近年注目されつつある東アジアを含む外国語科目の充実、国際的な他大学との交流などにより、グローバルに活躍するための表現力・ツール・感性を身に付けられるようにすることで育成する。
2	グローバル人材を育成するために、例えば1、2年生のうち1度は海外に出品する、質の保証のために、例えば1年間に何作品作らないと進級させないことにする、といった大学の人材育成の目的を果たす仕掛け、手段が必要ではないかと。	また、その他の人材育成についても、例えば、美術分野を横断的に学び、多くの素材・技法に関する基礎的な技術を経験する「総合科目」を必修とすることで、多様な価値を交換・共有できる能力を育成したり、各分野毎に段階に応じた必修の演習科目を設けることで、各専攻が目指す力を確実に育むなど、具体的な手段を講じていく。
3	中教審では、現在、質の保証の問題が指摘されており、各大学は質の保証の考え方を整理しているところであることから、基本理念の各項目に「質の保証」の文言があってもよいのではないかと。	質の保証に関しては、全国的な高等教育機関の課題と考えられることから、新大学固有の理念として記述するのではなく、具体的な教育内容や評価制度の構築等にあたって質の保証にも留意しながら検討する。
4	基本構想の中に「アドミッションポリシー」の記述はあるが、それは本来、出口の「ディプロマポリシー」とそのための「カリキュラムポリシー」が先にあってという順番のはずなので、そこは整理した方がよいのではないかと。	基本構想の中には、「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」の要素も盛り込んでいるが、基本構想を補足する資料として「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」を分かりやすく整理したものを作成する。
5	新大学の専攻は、「彫刻」「工芸」などと書かれていないので、受験生からすると分かりにくい。どの専攻を出るとどういう進路に進めるのかというディプロマポリシーがないと、初年度に学生を十分集めるのは難しくなるのではないかと。	
6	美短はデザインと工芸の2本立てになっていると思うが、それに加えてどのようなことが学べるのか見えにくいので、もう少し分かりやすくした方がよい。	どのようなことが新たに学べるかについては、今後、新大学を高校生や一般の方々にPRする段階で、分かりやすく伝えられるよう工夫する。
7	ファインアートのベースとなる部分の発掘により、ファインの考え方を持ったデザインやマネジメントなどができる人が必要になってきている。例えば、コンピュータは使えても素材感を知らないとよい表現はできないものだが、この構想ではそういったアナログ面の育成がどこに来るのか見えにくい。	「3(3)教育課程の編成と特色」の中に、自らの専攻に関するもの以外の科目も、「導入科目」「専門基礎科目」などの区分において習得させることで、多様な価値を交換・共有できる能力を育成することが分かるような表現を盛り込む。